

令和4年度 第1回山梨病院地域連携協議会 議事録

日 時 令和4年10月12日(水) 16:00~17:00

場 所 山梨病院2階会議室

委 員

敬称略

甲府市医師会 総務理事 (ひろクリニック院長)	高橋 章弘
山梨県訪問看護支援センター長	功刀 仁子
山梨県官公立病院等協議会 幹事 (国立病院機構甲府病院院長)	萩野 哲男
国立病院機構甲府病院医療福祉相談員 (オブザーバー)	市村 友希
山梨県老人保健施設協議会 代表 (医療法人健栄会副理事長)	中込 敏
朝日地区自治会連合会 会長	服田 尚隆
JCHO山梨病院 院長	佐藤 公
JCHO山梨病院 副院長	石原 司
JCHO山梨病院 看護部長	小池 由紀恵
JCHO山梨病院 副看護部長	小沼 久美
JCHO山梨病院 地域医療連携室長	島津 弘江
JCHO山梨病院 地域医療連携係長	中村 成一郎

司会 JCHO山梨病院 事務長 山田 清人

書記 JCHO山梨病院 総務企画 丸目 恵

議事録

1. 山梨病院 山田事務長開式

令和4年度第1回山梨病院地域連携協議会を開催いたします。

この協議会は、独立行政法人地域医療機能推進機構法第20条において施設の運営にあたり協議会の開催等により施設の利用者、関係者より広く意見を聞き、参考とし地域の実情に応じた運用に努めなければならないと定められており、当院としては年2回開催することとしております。

2. 山梨病院 佐藤病院長挨拶

この病院は地域医療を目指した病院としておりますが、最近はコロナの対応や働き方改革等、様々な事に同時に対応しないといけない状況になっております。

コロナに関して、ワクチン接種を始めてから1万人以上の接種に対応しておりますし、今年は重点医療機関になり、コロナ患者の受け入れもしております。コロナ患者の多くは施設の入所者です。そういう意味でも地域で必要とされていることに、より密に対応していかないといけないと思います。

今日お集まりいただきました皆さんに率直なご意見を伺いまして、より地域のニーズに合った病院を目指したいと思いますので、忌憚なきご意見を寄せていただければと思います。今日はどうぞよろしく願いいたします。

3. 議題

○ 患者数等実績報告 山梨病院 中村地域医療連携係長

令和4年度上半期の実績について、入院患者数は令和3年度の実績に比べると減少しておりますが、例年下半期に患者数が増加する傾向にあります。令和4年度8月につきまして、コロナ患者の対応で一時入院を制限した時期があり、患者数減少に影響しております。

紹介・逆紹介率について、ともに上昇傾向にあります。当院の目標値は55%と据えておりますので、紹介率について数を上げていきたいと考えております。

紹介元医療機関は、近隣の泌尿器クリニックを中心にCT・MRI等の検査依頼が数多くあります。また、高度急性期だけでなく、当院の消化器病センターへ消化器系のクリニックからの紹介が数多くある状況です。

他院からの入院患者件数に関して、過去5年で上昇しています。他院からの入院割合において、当院は200床未満ですが、令和4年度の診療報酬改定で200床以上の地域包括ケア病棟は、他院からの入院割合を4割以上にすることが義務付けられていることから、今後の診療報酬改定に注意しながら、他院からの入院割合を増やしていきたいと思っております。

今後の課題として、さらに紹介率を上げるために当院の特徴を各病院、開業医、地域の多職種、地域住民へ幅広く伝える必要があるため、広報活動の強化、高度医療機関・高度急性期病院を中心に入院受け入れを強化していくこと、地域包括ケア病棟の使命として在宅復帰の強化、昨今課題となっている地域での看取りを推進していくことを課題に向けております。また、身寄りがいない方が増えておりますので、行政と連携して適切な対応をしていきたいと考えております。さらに地域への出張講演や関係者との研修会をコロナ対策しながら再開していきたいと考えています。

○ 診療報酬改定への対応 山梨病院 石原副院長

出来るだけ地域に密着した地域包括ケア病棟を維持する必要があることから、当院としては、自宅からの緊急入院を3月9人以上受け入れることで地域医療に貢献していくことを考えています。

また、当院で主治医として診ていた重症な患者の在宅に向けての支援として、訪問での診療ができるように体制を整えるということで在宅療養支援病院として、導入していくことを考えています。

○ 意見交換

『山梨県官公立病院等協議会 萩野委員』

急性期病棟と地域包括ケア病棟の内訳はどれぐらいか。

『山梨病院 佐藤委員』

急性期病棟が126床、地域包括ケア病棟が42床。

『山梨県官公立病院等協議会 萩野委員』

地域医療構想を背景に在宅を推進し回復期に力を注ぐようだが、今後は包括を増やしていく構想でよいか。

『山梨病院 佐藤委員』

現時点ではそのように思っていない。これからの病院の構想で地域等に対応していく中で、需要が増えていくことがあれば、その時点で考えていく。

『山梨県官公立病院等協議会 萩野委員』

在宅療養支援病院になると訪問看護や訪問診療をやっていかないといけないが、今は訪問看護をされているか。

『山梨病院 石原委員』

訪問看護はしていない。新たに新設していかないといけない状況で、現時点では困難な状況であり準備段階である。まず当院で通院している患者を中心に主治医が往診、訪問を行いながら地域の在宅へ移行することを考えている。

『甲府市医師会 高橋委員』

国の方針として病院自体が訪問看護や訪問診療を主体的に推進していく方針だが、療養診療所が訪問看護ステーションや病院と連携している中で、今後の方針として、病院が直接的に入ってくる流れになるのか。

『山梨病院 佐藤委員』

病院独自の訪問看護ステーション等をすぐに稼働させることは考えていない。数年前まで当院も訪問看護ステーションがあったが、撤退した事実がある。当面は当院を受診した方や近所の方に関して、訪問診療や看取りへ繋げていき、それ以外に訪問診療を行う診療所や訪問看護ステーションと連携して、入院が必要となったときやレスパイトのときに受け入れられるような受け皿として機能していきたいと考えている。

『甲府市医師会 高橋委員』

近隣に様々な病院がある中で、山梨病院としての強みはあるか。

『山梨病院 佐藤委員』

地域のニーズに応えられる病院でありたいというところであり、その中で、消化器や健診施設が挙げられる。また、消化器や循環器、整形外科に対応し育てていきたい、維持していきたいと考えている。

『自治会 服田委員』

コロナが流行する前は、講習会をやっていただいた。コロナが落ち着いたら、山梨病院に地域の方々へ勉強になるようなことをやっていただきたい。

朝日地区全体としては、保健所と連携しながら、健康について勉強会や研修会をしている。コロナ対策をしながら、祭り等行事を実施して問題はなかった。今後も

病院と相談しながら取り組んでいくので、よろしくお願いします。

『甲府市医師会 高橋委員』

CT や MRI の紹介について、連携室を通して予約しているのか。また、健診に関して、便潜血が陽性で大腸内視鏡を依頼したい場合にスピーディーな対応はあるか。

『山梨病院 中村委員』

CT や MRI の予約は、スピーディーな観点から技師が直接取っている。

『山梨病院 佐藤委員』

放射線について、午後に開業医から CT の依頼があっても当日に読影結果を添付して返送するシステムが出来ている。

内視鏡の電話予約に関して、鎮静の内視鏡を希望の場合や腫瘍があった場合の患者への説明、同意は電話では対応しづらい。その場合は外来へ紹介していただくと対応しやすい。ニーズやリスクが個別化されてきていて、一律な対応は困難になってきている。

『山梨県老人保健施設協議会 中込委員』

入院患者数における前年度比の増加は、コロナの影響で前年度が減少していたことが原因か。

また、国の政策で在宅を推進していく中で、急性期で短い期間入院した後、行き場がなく、リハビリを兼ねて老健へ来る状況である。超高齢化の中で、人員確保が非常に困難であるが、病院としてはどうお考えか。

『山梨病院 中村委員』

ご指摘の通り、コロナ禍において令和 2 年度に患者数が一旦下がったところで、令和 3 年度に平時に戻りつつある状況にある。

『山梨病院 佐藤委員』

一人になってしまったときに本当に在宅で診れるのか、ステーションで対応できるのか個別の要素であると思う。政策レベルでの捉え方と我々は個々の事例を見ながら対応していかざるを得ないと思うので、個々に応じた柔軟な対応をしていく必要がある。

『山梨県看護協会 功刀委員』

山梨県の訪問看護ステーションの数は年々増加している傾向にあるが、全国と比較すると最下位であり、規模も小さい。したがって訪問看護ステーションの看護師の研修を組んでも参加しにくい状況にある。その中で、連絡協議会や地区、支部が保健所と連携しながら問題解決の会議や情報交換をしている。

在宅療養において、人生の最期を締め括る手伝いをしている中で、山梨病院の職員は仕事がやりやすいとの感想があった。これからの課題として、仕事がやりやすい施設が一施設だけでなく、県内全体がそのようになっていただきたい。

4. お知らせ 山梨病院 中村地域医療連携係長

地域連携協議会は、設置規定により年2回以上の開催と定められており、次回は来年2月の水曜日の同じ時間で予定したくご協力をお願いいたします。

5. 閉会 山梨病院 石原副院長

コロナの感染で対面での会議が困難な状況が続きました。対面の会議で意見を聞かせていただくと今後の病院の経営、介護、支援等に活かしていけると思いますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。